

区議会レポート

116号

2025年9月17日発行

発行：

かつしか区民連合

【区議会控室】〒124-0012

東京都葛飾区立石 5-13-1

電話 03-3695-1111 (代)

f a x 03-3697-0137

葛飾区議会議員

かわごえ誠一

本号の内容

表面：区議会第三回定例会など

裏面：活動報告ピックアップ

葛飾区議会第三回定例会開会

◆第三回定例会が9月10日(水)に開会し、10月7日(火)までの28日間の会期で開催されます。

■第二次一般会計補正予算案 71億5,600万円

◆今定例会では補正予算案として一般会計で71億5,600万円が上程されました。◆その他、報告された案件など紹介します。

◆(仮称)葛飾区住宅宿泊事業の適正な運営の確保に関する条例等(民泊条例)(素案)が報告

◎昨今のインバウンド増加に伴い民泊が増加し、近隣からの苦情などトラブルも増加している状況です。それらに対応するために条例化し、事業者への指導を強化していきます。

パブリックコメント募集 9月22日(月)～10月21日(火)

◆(仮称)葛飾区認知症施策推進計画(骨子案)及び

(仮称)葛飾区認知症への理解促進に向けた条例(骨子案)

◎区が実施した「認知症に関する意識・以降調査の報告」を受け、認知症への施策を進めるための計画と条例の骨子案が報告されました。第4回定例会の素案報告に向け策定が進められます。

◆葛飾区水と緑の基本方針(素案)・実施プラン(素案)

◎葛飾区の水辺と緑環境のより良い環境整備に向け、基本方針の素案が報告されました。今後、パブリックコメントと対面による意見聴取・オープンハウスが行われます。

パブリックコメント募集 10月15日(水)～11月21日(金)

～水と緑の基本方針・実施プラン オープンハウス会場

・アリオ亀有 10月31日(金)・11月1日(土)

・新小岩駅北口広場 11月14日(金)・15日(土)

◆Web口座振替受付サービス導入へ

◎10月1日からパソコンやスマホからインターネットを利用した口座振替手続きができるようになります。

【対象】住民税・国民健康保険料・介護保険料・後期高齢者医療保険料・保育園保育料・学童保育クラブ使用料

【周知】広報かつしか・区HP・区SNSなど

◆私立幼稚園等への弁当食材料費補助実施へ

◎弁当を持参している私立幼稚園や認定こども園などに通う区内在園児の保護者へ、一日当たり400円(月上限8000円)を補助します。

◆「中川かわまちづくり」イベント開催へ

◎中川を活かしたまちづくりの一環として昨年、試行的に行われた中川河川敷でのイベントが今年も開催されることになりました。

亀有地区会場(中川橋アリオ側)

10月25日(土)11時～16時

高砂地区会場(高砂橋高砂側)

10月26日(日)11時～16時



昨年のかわまちづくり

葛飾区議会・区長選挙

◆告示日：令和7年11月2日(日) ◆定数：区議会議員40人 ◆区長：1人

◆投票日・開票日：令和7年11月9日(日) ◆期日前投票：11月3日(月)～8日(土)

■かわごえ誠一連絡先■

〒124-0012 葛飾区立石8-47-18

携帯電話 090-2932-7315

e-mail: info@kawagoeseiichi.com

◆かわごえ誠一プロフィール◆

●1963年3月川崎市生まれ ●立石在住37年 ●防災士 ●子育てネットワーク・学童保育・PTA・図書館友の会などの活動に取組む ●都議会議員秘書を経て2013年区議選で初当選・2021年三期目当選 ●議会所属：保健福祉委員会・議会運営委員会・危機管理対策特別委員会など

かわごえ誠一オフィシャルサイト www.kawagoeseiichi.com →

日々の活動はFacebook かわごえ誠一をご覧ください。



タウンミーティング・学習会報告

■タウンミーティング「今、子どもの貧困について考える～見えづらい子どもの貧困～子ども・若者を社会で支えるために」開催

◆9月1日(月)にタウンミーティング「今、子どもの貧困を考える」を開催しました。◆冒頭かわごえからはタウンミーティングを企画した課題意識と活動について報告しました。◆子どもの課題について、家庭の自己責任とするのではなく、将来の社会を担う子どもや若者を社会全体で支える関係が重要です。◆そのためには子どもが豊かに育つために必要なことを社会で共有し、資源を投入する必要があります。◆区では子ども・若者計画の策定など子ども・若者支援体制の整備を進めてきましたが、更なる充実が必要です。

進める必要がある。◆貧困率が改善してきていると言われるが、ひとり親家庭の貧困率が世界的にもワーストクラスだ。◆日本のひとり親世帯は働き詰めても困窮から抜け出せない。◆これは個人の問題ではなく非正規就労や低賃金など社会の問題である。◆今も大変な状況に追いやられている子どもは無くならない。◆今、子どものいじめや不登校、自死などが過去最大であり、このような日本で良いのだろうか?◆絶望の連鎖を断たなければならない。

◆子どもの貧困解消へ、公共と民間のベストミックスを◆子どもの貧困をなくすために国会に訴え、「子どもの貧困対策推進法」から「子どもの貧困解消法」へ「貧困解消」を明確に示した名称変更と、憲法第25条生存権を明確に反映した法改正ができた。◆これまで、子ども食堂などが地域に増えてきたが、行政や地域から支援の依頼が集中し、民間でできることを超えているとの声が聞かれる。◆民間と行政の活動のベストミックスをしていくことが重要だ。◆子どもを地域で支えるために子ども版デイケアのような居場所などの仕組みを作ることが必要だ。◆社会に「子どものために投資をしてほしい」とお願いしてきたが、子どもが投資の対象ではないと学んだ。◆子ども一人一人が人として幸せになることが基本であり、今そこにいる子どもを社会全体で育てていくことが必要だと考えている。

■現場からの報告：子ども・若者のSOSに答えるために～行政の支援が届かない子ども若者に寄り添う活動

講師：三枝 功待氏 NPO 法人ハーフタイム理事長
◆葛飾区で貧困家庭などの子ども支援に学生の時から関わってきたが、困難を抱えている子どもに継続的に関わるため団体を立ち上げた。◆子どもたちは様々な環境におかれているが、行政の支援が届かない子どもたちがおり、今も親から暴力を受けている子どもなどに寄り添っている。◆子どもの悩みを聞いたり、やりたいことに寄り添い、子どもの思いにオーダーメイドに対応している。◆区内に複数の非公表の子どもの居場所を作り、個別に対応している。◆ハーフタイムが関わっても、困難な状況から抜け出せる子どもは一握りだが、それでも関わることで変わっていく子どもがいることが重要だ。◆行政からの助成もあるが、多くは寄附で活動が成り立っている。◆このような活動を知っていただき支援していただきたい。

■まとめ：それぞれの講演から「子どもが将来を諦めることを無くしたい」という思いを強く感じました。◆一人一人の子ども・若者を一人の「人」として受け止めることが人権の基本であることを改めて確認しました。◆子どもの貧困を解消するために公共と民間の役割の確認し、「ベストミックス」の支援を構築する必要性を痛感しました。



タウンミーティングの会場風景

■子どもの貧困対策・支援の現場から 子どもの貧困対策法の12年

～困難を抱えた子ども・若者の権利を守るために～

講師：小河 光治氏 公益財団法人 子どもの貧困対策センター「あすのば」代表理事

◆自身が子どもの時に父親を交通事故で亡くし、貧困状態になったが、その中でも地域の人たちの支えや、あしなが育英会などの支援により社会で自立することができた。◆子どもがいつどのように貧困状態に陥るか解らず、それは自己責任ではない。◆社会の支援があれば、私たちのようにしっかりと自立することができる。

■子どもの貧困を断ち切るため・「あすのば」の活動

◆現在、子どもたちの置かれている状況は大変厳しい。◆今、これまでに経験したことがない物価高が子どもたちを厳しい状況に追い込んでいる。◆「あすのば」はこれから先、苦しい思いをする子どもたちを無くしたいとの思いで活動をしている。◆子どもの貧困に対する法律を作ろう、と動いたのは当事者の若者たちだ。◆本当に苦しい子は声を上げられない、その子どもたちのために、「なんとかしたい」との思いで突き進み、国会に働きかけ、「子どもの貧困対策推進法」ができた。◆しかし内容は十分とは言えず、それを解消するために子どもの貧困解消センターを作った。◆「あすのば」では子どもの貧困の現状の調査し、国を動かして制度を変えていくことや、民間活動の中間支援、直接子どもたちを支援する活動をしている。◆あすのば10周年の時に若者が語った「16歳の僕たちは10年経ったら26歳になってしまう」「子どもは待ってられない」「こんな思いをする子どもを私たちが最後にしてほしい」という言葉が忘れられない。

■「貧困」子どもの「貧」と「困」は社会の課題

◆貧困は「貧」と「困」の状態がある。◆経済的な「貧」だけでなく、生きづらさなど「困」を抱えている子どもなど、それぞれ個々に異なっている。◆給付など公でやるべきことと、支え合いなど地域できることをそれぞれ

